

猛暑と車両トラブルに関する調査レポート

車保有者の暑さ対策の実態と JAF・オートバックスの専門家の見解から見る
猛暑下における車両トラブルおよび推奨される対策について

～ リスクを高める誤った暑さ対策とは ～

目次

- 01.** 猛暑と車に関するインターネット調査の結果について
- 02.** タイヤの空気圧を見た目で判断するリスクについて（JAF ユーザーテストより）
- 03.** 猛暑下におけるタイヤのトラブル発生件数と過去 4 年の傾向について

ナイル株式会社 カルモマガジン

2025 年 8 月 12 日

調査結果詳細

- ・ 4 人に 1 人が猛暑対策を取り入れているが、屋根付き駐車場で車を保管しているのは 3 割程度
- ・ 人気の猛暑対策はサンシェード。一方で車内温度を下げる効果は見込めない点に注意
- ・ 年々高まる平均気温と比例するように、タイヤのトラブルによる JAF の出動件数も増えている

調査概要

- ・ 調査対象：5,000 人
- ・ 調査機関：自社調べ（調査ツール Freeasy 使用）
- ・ 調査方法：インターネット調査
- ・ 調査期間：2025 年 6 月 17 日～6 月 20 日
- ・ 有効回答数（サンプル数）：車を所有する全国の男女 2,781 人

調査背景

近年、猛暑が常態化しており、気象庁による「[気候変動監視レポート](#)」でも、直近 6 年の日本の年平均気温は歴代上位の気温偏差で推移しています。2023、2024 年においては、1898 年以降の観測史上 2 年連続で 1 位を更新するなど異常気象が続くなか、猛暑が原因と考えられる車両トラブルも増加傾向にあります。一方で、車両の管理方法や暑さ対策は従前のとおりです。

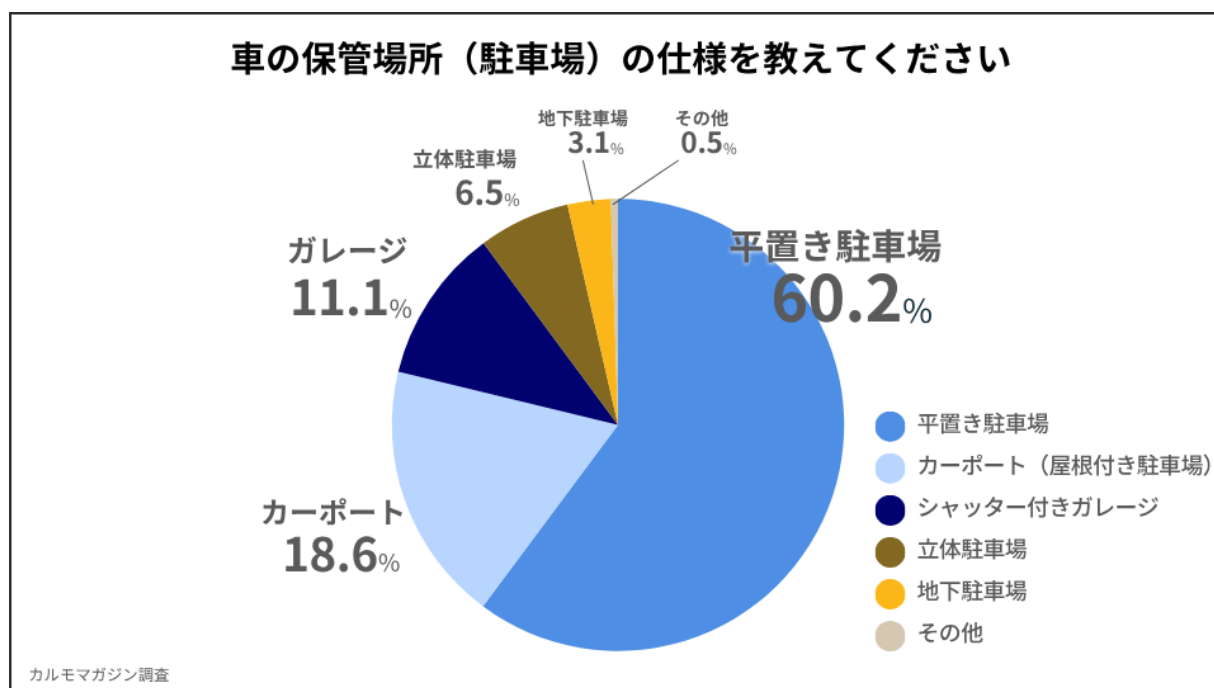
「最も暑い夏」を過ごすうえで車に必要な対策とは何なのか、全国のドライバーの意識や実態を調査するとともに、一般社団法人日本自動車連盟 JAF 認定セーフティアドバイザーの谷 宗一郎氏および株式会社オートバックスセブン A PIT オートバックス東雲のカーライフアドバイザー 西部 豪進氏に猛暑下における車両トラブルの見解を聞き、車やドライバーの安全・快適を守るための情報をまとめました。

01. 猛暑と車に関するインターネット調査の結果について

個人向けカーリースサービス「カーリースカルモくん」（以下、カルモくん）を提供するナイル株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：高橋 飛翔）が、車を所有する全国の男女 2,781 人を対象に、車の保管場所や猛暑下における車両トラブルの経験、また、取り入れている暑さ対策などについて行ったインターネット調査の結果は次のようになりました。

一般社団法人日本自動車連盟 JAF 認定セーフティアドバイザーの谷 宗一郎氏および株式会社オートバックスセブン A PIT オートバックス東雲のカーライフアドバイザー 西部 豪進氏への取材で伺った見解や、インターネット調査から判明した誤った対応の危険性などとともに報告いたします。

■ 約 7 割が紫外線の影響を受けやすい屋根なし駐車場で車を保管している



Q1：車の保管場所（駐車場）の仕様を教えてください

- ・平置き駐車場：60.2%
- ・カーポート（屋根付き駐車場）：18.6%
- ・シャッター付きガレージ：11.1%
- ・立体駐車場：6.5%
- ・地下駐車場：3.1%
- ・その他：0.5%

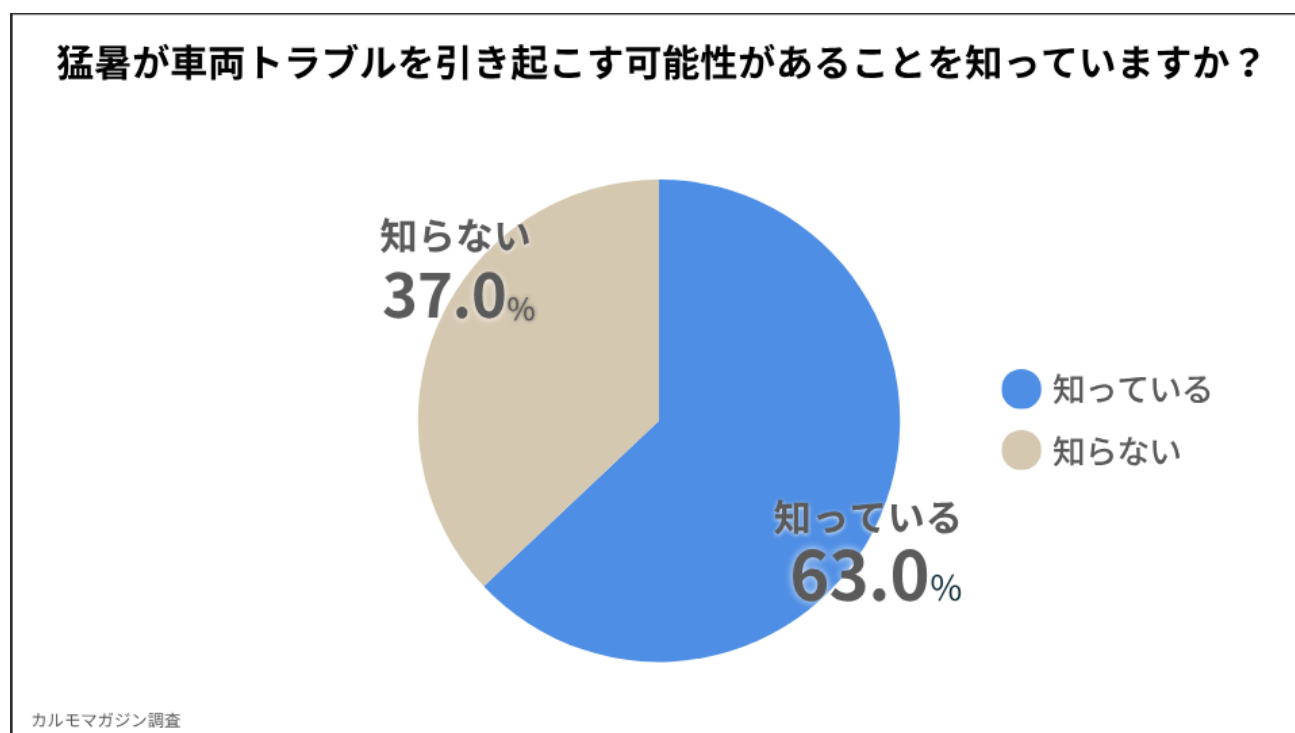
車を所有する全国の男女 2,781 人に駐車場の仕様を聞いたところ、「平置き駐車場」が 60.2%と、6 割以上を占める結果となりました。

JAF が行った「[真夏の車内温度（JAF ユーザーテスト）](#)」によると、猛暑下で屋根のない場所に駐車した場合、1 時間ほどで車内温度が 50℃前後に達することが確認されています。また、オートバックスの西部氏によれば、夏場の強い紫外線は車内外の劣化だけでなく、タイヤの劣化も促進する要因になるとのことです。

そのため、猛暑から車を守るには、カーポートやガレージなど、直射日光や紫外線を遮断できる駐車場での保管を推奨しています。

しかし実際は、2 番目に多かった 18.6%の「カーポート（屋根付き駐車場）」を含め、「シャッター付きガレージ」や「地下駐車場」など日差しを遮ることができる駐車場を使用しているのは全体の 3 割程度で、7 割近い自動車ユーザーが屋根のない駐車場に車を停めていることがわかりました。

■ 猛暑による車両トラブルのリスクを「知っている」のは 6 割以上



Q2：猛暑が車両トラブルを引き起こす可能性があることを知ってますか？

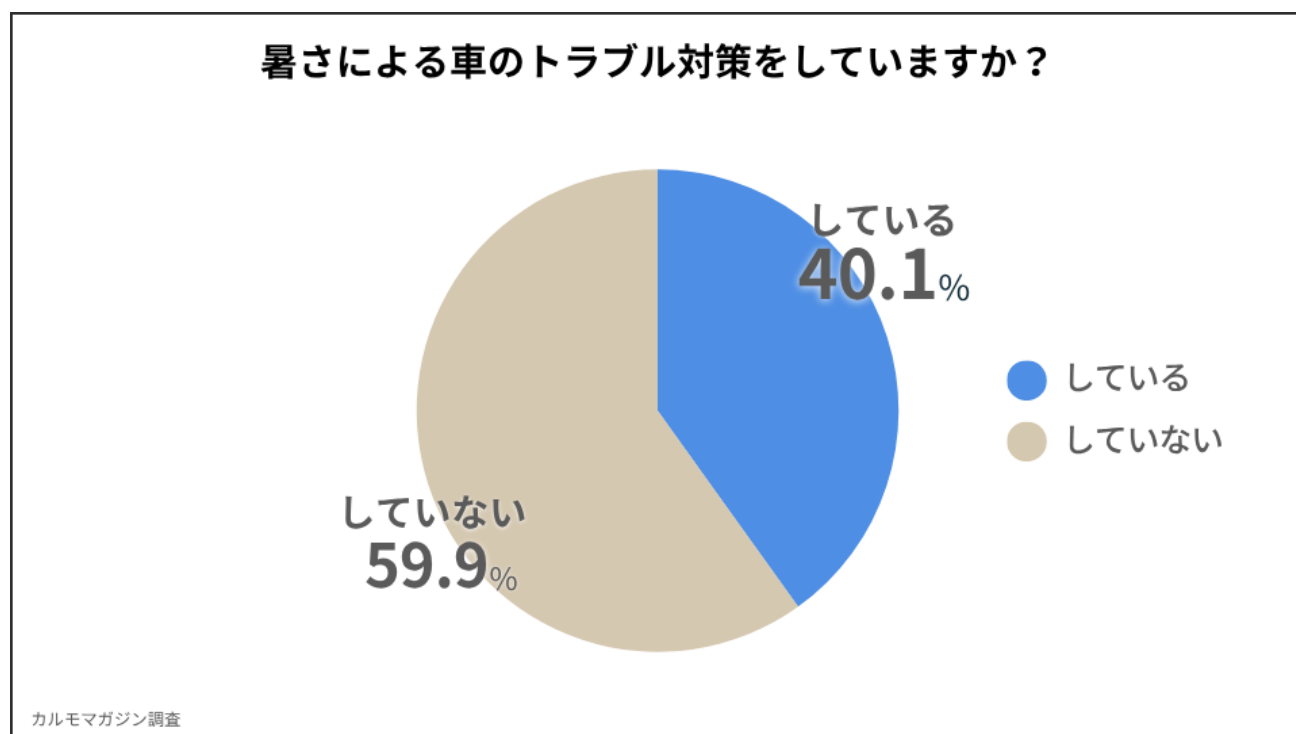
- ・知っている：63.0%
- ・知らない：37.0%

車両トラブルはさまざまな要因が複合的に考えられ、猛暑が原因とは断定できないケースが大半ですが、オートバックスの西部氏によると、外気温・路面温度の上昇によって、タイヤのパンク・バーストやバッテリー上がりが起こりやすくなるなど、車両トラブルを間接的に引き起こす要因になることもあるといいます。

一方、猛暑が車両トラブルを引き起こす可能性があることを知っているか尋ねた調査では、「知っている」と回答した方は 63.0%に留まり、残りの 37.0%は「知らない」と回答しています。

このことから、約 4 割は猛暑対策の重要性を十分に認識しておらず、対策もしていない可能性が高いと考えられます。

■ 4 人に 1 人が猛暑対策をしている一方、間違った方法でリスクを高めているケースも



Q3：暑さによる車のトラブル対策をしていますか？

- ・ している：40.1%
- ・ していない：59.9%

Q2 で猛暑が車両トラブルを引き起こす可能性があることを「知っている」と回答した方に何かしらの対策をしているか聞いたところ、「している」と回答したのは 40.1%でした。

「していない」と回答した 59.9%と、Q2 で猛暑による車両トラブルのリスクを「知らない」と回答した方を合わせると、車の猛暑対策をしているのは 4 人に 1 人程度ということになります。

「対策をしている」と回答した方が実施している暑さ対策の一例

サンシェードを付ける

こまめな点検

タイヤの空気圧を下げる

遮熱性のカバーで覆う

バッテリーのマイナス端子を外す

など

カルモマガジン調査

なお、暑さ対策を「している」と回答した方が実際に行っている対策は、「サンシェードを付ける」が最も多く、次いで「こまめに点検している」となりました。また、「夏はタイヤの空気圧を少し下げる」「遮熱性のカバーで車を被う」「バッテリーのマイナス端子を外す」といった対策も散見されました。

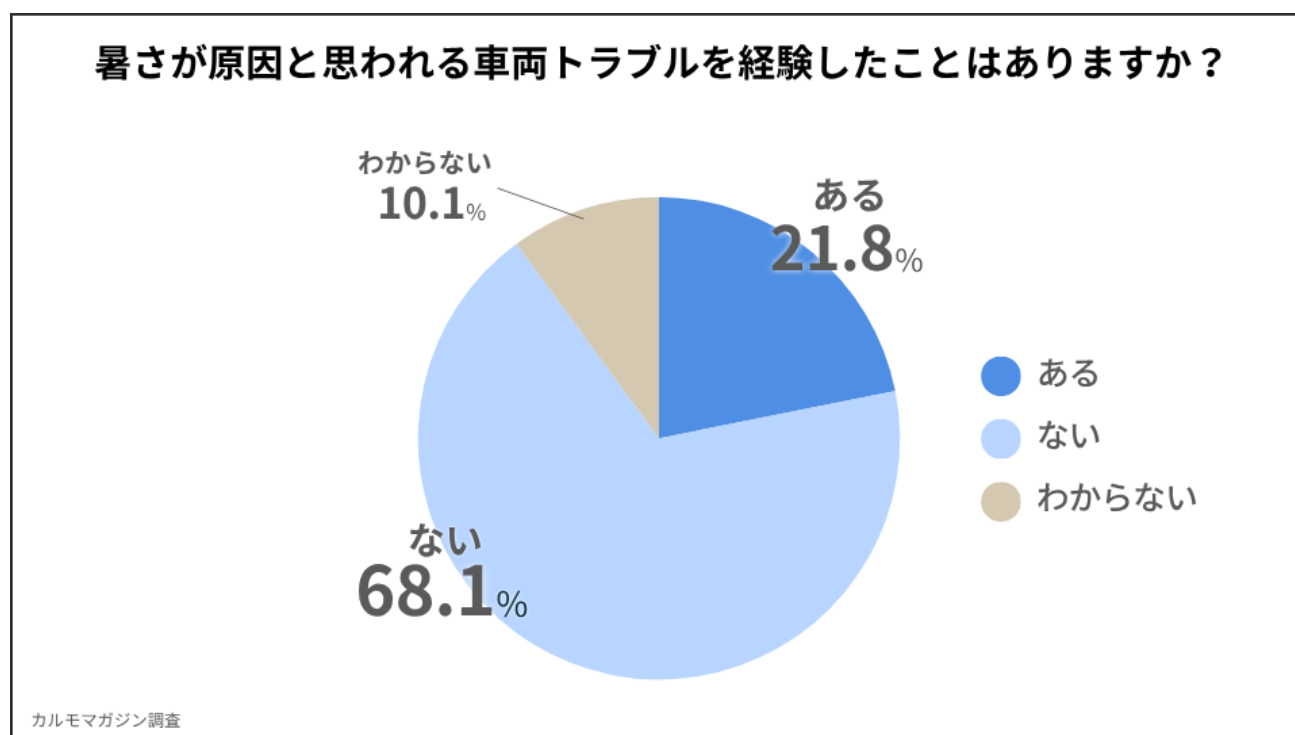
しかし、JAF が 2012 年に行った「真夏の車内温度（JAF ユーザーテスト）」にて、サンシェードは車内温度の抑制にはほとんど効果が認められないことがわかっています。外気温 35℃の炎天下で行われた検証では、サンシェードを付けずに駐車した白いボディカラーの車両の最高車内温度は 52℃に達しました。一方、アルミ製サンシェードを装着した同色車でも最高 50℃と、ほとんど差が見られません。

また、気象庁が 1898 年以降毎年観測している「[日本の年平均気温偏差](#)」によれば、2012 年の平均気温偏差は -0.26℃であったのに対し、2024 年は +1.48℃と上昇しています。これを踏まえると、現在の車内温度はさらに高くなると推測されます。

そのようななかで、サンシェードを装着している安心感から食品や電子機器、カード類などを放置することは別のリスクやトラブルを招くほか、子供やペットを乗せたままにしておくことは命にかかわるとして、JAF の谷氏は危険性を強く訴えます。

また、タイヤの空気圧を意図的に下げるという対策についても、タイヤの異常発熱や内部構造の破損、バーストを招くほか、ハンドリングやブレーキ性能の低下、燃費の悪化にもつながるなど、安全性やタイヤの寿命を大きく損なうリスクが高まります。オートバックスの西部氏によると、昨今のタイヤは温度変化や空気の膨張を想定して設計されているとのことで、季節に関わらず、メーカー指定の適正空気圧に保つことを推奨しています。

■暑さによる車両トラブルはバッテリー、エアコン、タイヤで約 8 割



Q4：暑さが原因と思われる車両トラブルを経験したことはありますか？

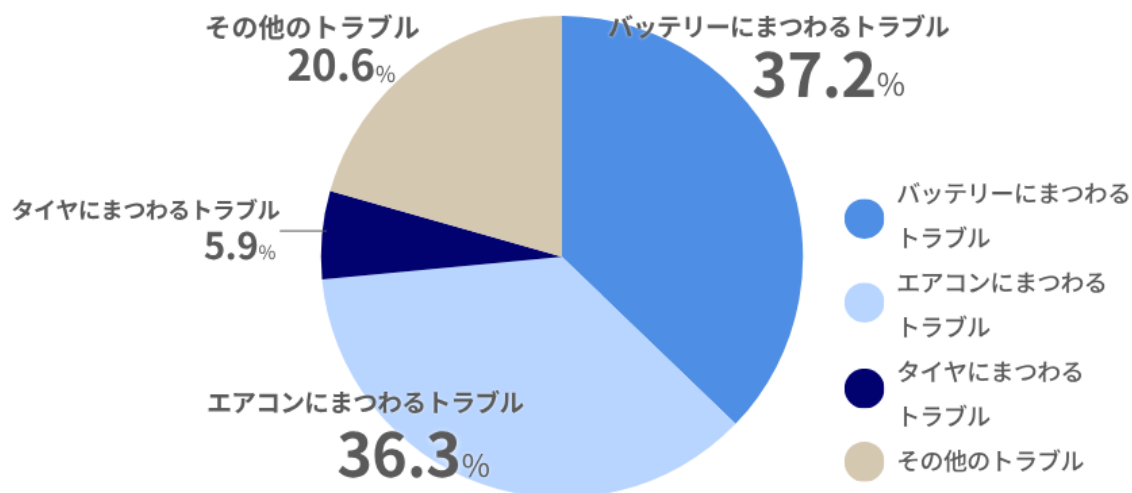
- ・ある：21.9%
- ・ない：68.1%
- ・わからない：10.0%

続いて、車を所有する全国の男女 2,781 人全員に、暑さが原因と思われる車両トラブルを経験したことがあるか聞いたところ、21.9%の方が「ある」と回答しました。

なお、JAF の谷氏、オートバックスの西部氏ともに、夏場が増える傾向がある車両トラブルとしてバッテリー、エアコン、タイヤを挙げています。

暑さが原因と思われる車両トラブルを経験したことはありますか？

－ 暑さが原因で起きた車の主なトラブルの内訳 －



カルモマガジン調査

実際に、同調査で暑さによる車両トラブルの経験が「ある」と回答した方に聞いた内容の内訳を見ると、「バッテリーにまつわるトラブル」が 37.2%、「エアコンにまつわるトラブル」が 36.3%、「タイヤにまつわるトラブル」が 5.9%で、8 割近くを占める結果となっています。

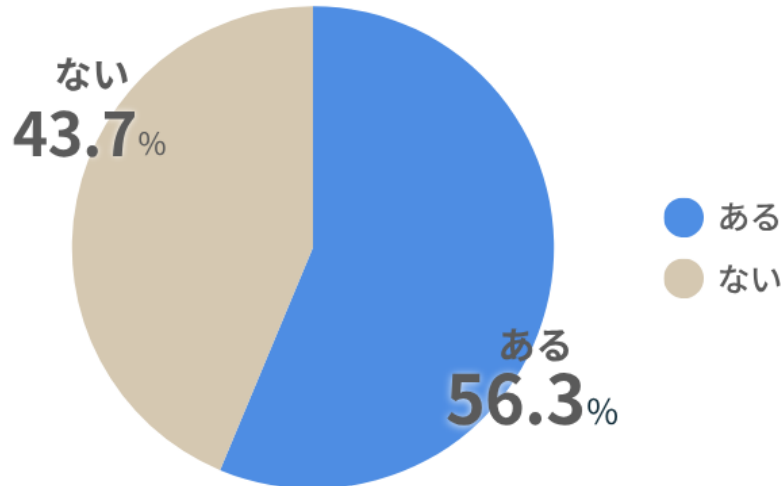
調査対象者から寄せられたトラブルの具体例を見ると、バッテリーでは「エアコンの使い過ぎとバッテリーのメンテナンス不足で車が動かなくなった」「猛暑日にエアコンを効かせて駐車していたらバッテリーが上がった」など、エアコン使用に起因する事例が目立ちました。

また、エアコンにまつわるトラブルでは、「真夏にエアコンをフル稼働させていたら突然熱風が吹き出した。原因は冷媒ガス漏れ」「突然エアコンが効かなくなった」「暑さでコンプレッサーが故障した」など、構造的な問題が多く報告されています。

タイヤにまつわるトラブルは「バースト」が最も多く、その原因として「空気圧異常」が散見されました。

■ 猛暑下で車両トラブルを経験しても 4 割強が未対策のまま

暑さによる車両トラブルの後に取り入れた対策はありますか？



カルモマガジン調査

Q5：暑さによる車両トラブルの後に取り入れた対策はありますか？

- ・ ある：56.3%
- ・ ない：43.7%

Q4 で暑さが原因と思われる車両トラブルを経験したことがあると回答した方に、トラブルに見舞われた後に取り入れた対策はあるか聞いたところ、「ある」と回答した方は 56.3%、「ない」と回答した方は 43.7%でした。

「ある」と回答した方の多くは、「点検やメンテナンスをこまめに行うようにした」「給油時にガソリンスタンドでチェックしてもらっている」など、日常的な点検習慣を取り入れるようになったと回答しています。また、「駐車場に屋根を設置した」「タイヤ交換を早めに行う」といった、設備や消耗品を見直す対策も一部に見られました。

一方で、対策を講じていないと回答した方からは、「猛暑が原因では対処のしようがない」「どんな対策をすればいいかわからない」といった声が多く寄せられました。そのほか、「修理にお金がかかり対策にまで費用を捻出できなかった」「対策するにはお金がかかるから」など、費用面を理由にあげる声も一定数見られました。

JAF では「[日常点検 15 項目](#)」の実施を推奨しており、特に猛暑下では、車体の下に溜まる液体の様子とタイヤの状態の 2 点について、出発前に必ず確認してほしいと谷氏は言います。これらがトラブルの早期発見につながるほか、走行中の車両トラブルを未然に防ぐことも可能になります。

また、オートバックスの西部氏も、猛暑対策として、冷媒ガスに含まれる水分や不純物を取り除く「エアコンガスクリーニング」や、フロントガラスにも貼付可能な「透明断熱フィルム」の使用を推奨しています。

[本レポートを基にした](#)

[猛暑における車のトラブルと対策の記事はこちらからご覧いただけます](#)

02. タイヤの空気圧を見ただけで判断するリスクについて（JAF ユーザーテストより）

タイヤの空気圧低下の検証（JAF ユーザーテスト）



適正空気圧の80タイヤ



適正空気圧の1/2の80タイヤ

テスト内容

左側の前後タイヤ2輪は適正空気圧、右側前後2輪は適正空気圧の1/2に設定。3名のモニターが適正空気圧のタイヤを見ただけで適正空気圧を1/2にしたタイヤを見て、どう判断するかを検証

検証結果

1名は「適正空気圧の3/4」、残り2名は「適正空気圧」と回答

出典：JAF_見ただけで運転でわかる？ タイヤの空気圧低下の検証（JAF ユーザーテスト）
<https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test/driving-environment/air-pressure-test>

走行前の点検が推奨されるものの一つに「タイヤの空気圧」がありますが、JAF の「[タイヤの空気圧低下の検証](#)」により、目視では空気圧が低下していることに気付けないケースもあることが明らかとなりました。

この検証では、左側の前後2輪は適正空気圧、右側の前後2輪は空気圧を適正値の2分の1に設定した偏平率45%、50%、65%、80%のタイヤそれぞれを装着した車両を用意し、3人のモニターに見た目で空気圧の違いを確認してもらいました。

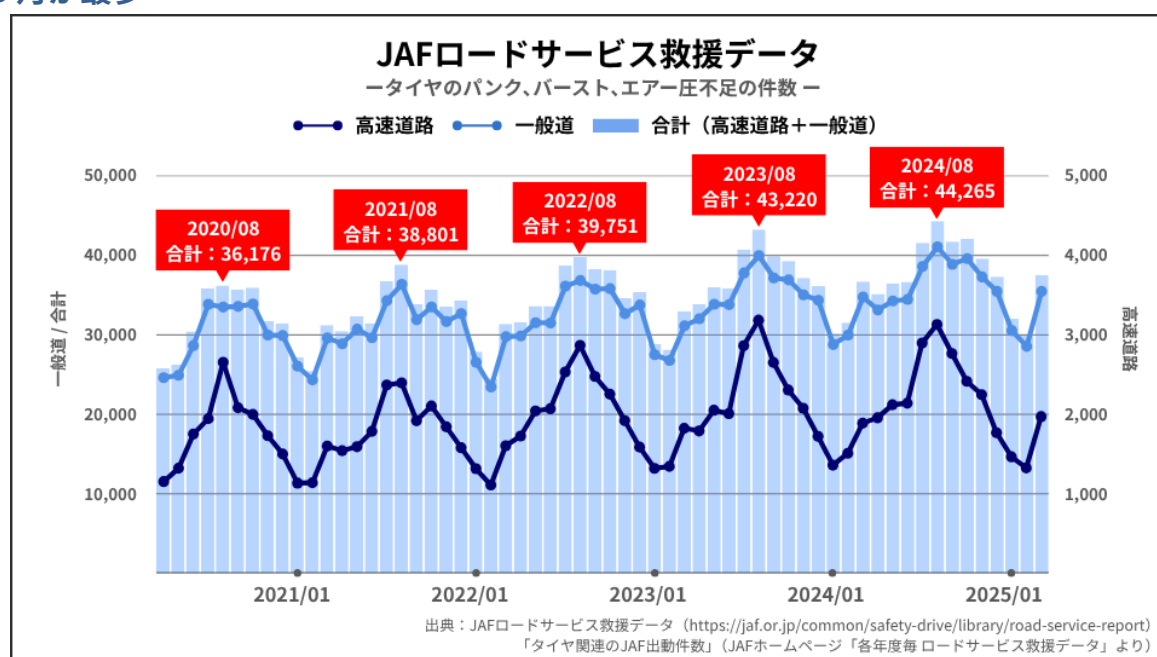
一般的な偏平率65%のタイヤについてはすべてのモニターが正しく判断できたのに対し、偏平率50%のタイヤでは全員が「適正空気圧の4分の1」と実際よりも低く見積もって回答しました。一方、偏平率80%のタイヤでは、1名が「適正空気圧の4分の3」、残りの2名は「適正空気圧」と、実際よりも高い数値を回答しており、見た目による判断の難しさが浮き彫りとなりました。

JAFの谷氏はこの検証結果を踏まえ、空気圧が減っていないように見える場合でも、車載のタイヤ空気圧監視システム（Tire Pressure Monitoring System）やガソリンスタンドなどに置いてあるタイヤゲージで定期的に空気圧を確認することを推奨しています。

03. 猛暑下におけるタイヤのトラブル発生件数と過去4年の傾向について

猛暑下においてタイヤのトラブルが増えている傾向は、「[JAF ロードサービス救援データ](#)」からも読み取ることができます。2020～2024年度の「タイヤのパンク、バースト、エア圧不足」によるJAFの出動件数の推移と、気象庁による過去4年の日本の年平均気温の経年変化と比較して見た猛暑とタイヤのトラブルの関連性について、それぞれご紹介します。

■ 高速道路及び一般道と高速道路の合計におけるタイヤのトラブル件数は5年連続で8月が最多

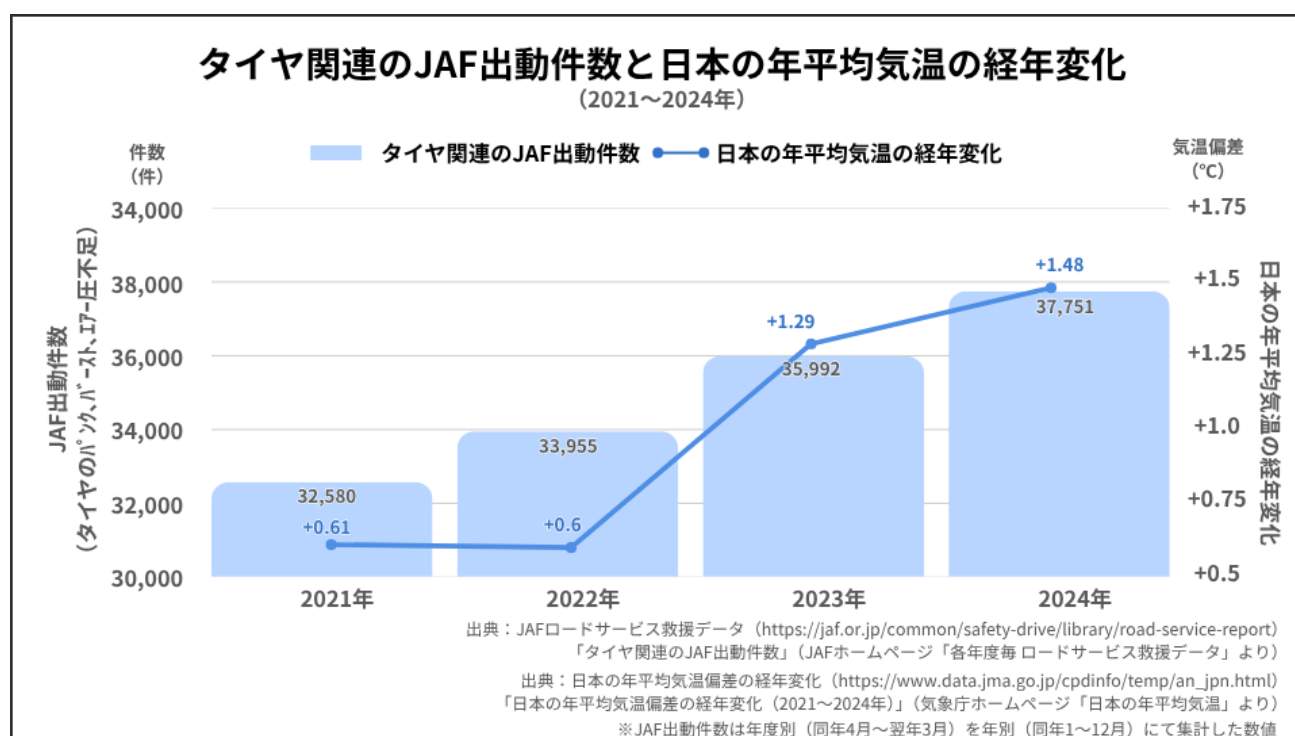


2020～2024 年度の「JAF ロードサービス救援データ」から「タイヤのパンク、バースト、エア圧不足」のみを抽出してグラフ化しました。その結果、一般道・高速道路ともに夏季に出動件数が増加する傾向が見られ、特に高速道路では8月の件数が突出していることがわかりました。

夏場の高温な外気や路面温度はタイヤに大きな負荷を与える一因となりやすく、特に高速走行時は影響を受けやすくなります。

JAF の谷氏によれば、「タイヤにひび割れや亀裂などがあるとバーストに至るリスクが高まる」として、走行前の点検がトラブル回避につながる可能性を示唆します。

■ 気温偏差が観測史上 1 位となった 2023 年はタイヤに関する出動件数も急増



同データを年間の出動件数で比較したところ、「タイヤのパンク、バースト、エア圧不足」による出動件数は2021年から2024年にかけて増加の傾向が見られました。とくに2023年は前年からの増加率が105.9%と、4年間で最も高くなっています。

また、同時期の気象庁「気候変動監視レポート」によると、2023年の年平均気温偏差は+1.29℃と、1898年の統計開始以降で過去最高を記録。その翌年の2024年も気温偏差はさらに上昇し、同様にJAFの出動件数も前年比104.9%と引き続き増加しています。

このように、気温上昇と出動件数の推移には一定の相関が見られることから、近年の猛暑が夏場のタイヤのトラブルに少なからず影響を与えていると考えることもできます。ただし、JAF の救援件数はトラブルの発生理由を特定したものではなく、利用者からの要請に基づいた救援実績であることを踏まえる必要があります。

また、近年はセルフ式ガソリンスタンドの普及や、スペアタイヤを搭載しない車種の増加など、気温以外の要因が出動件数の増加に影響している可能性も考慮しなければなりません。

なお、オートバックスの西部氏によれば、タイヤに含まれる柔軟性を保つ油分は、紫外線の影響で抜けやすくなるため、ひび割れや亀裂の発生リスクが高まる要因のひとつになっているといいます。

こうした点を踏まえ、猛暑が常態化する近年においては、日常的な点検に加え、紫外線を遮る保管や早めのタイヤ交換といった対応も検討すべきだとしています。

●本レポートの内容を基にした記事はこちらからご覧いただけます



<https://carmo-kun.jp/column/newcar/heatwave-car-issues/>

カルモマガジンとは

個人向けカーリースサービス「[カーリースカルモくん](#)」が提供するカーライフ情報 Web メディア。カーリースや車に関するお役立ち情報をお届けするとともに、「ナイル 47PROJECT」として全国の交通安全活動への寄付や、すべてのドライバーが安全・安心に車を利用するための情報発信にも注力しています。

本記事および PDF レポートは、出典を明記のうえ、どうぞ自由にご活用ください。なお、データの内容自体の加工・改変はご遠慮いただいております。

本記事および PDF レポートに関する問い合わせや取材依頼は、以下よりお気軽にお問い合わせください。

カルモマガジン編集部：carmo_mag.navi@nytle.co.jp

取材協力・監修者プロフィール



谷 宗一郎

一般社団法人日本自動車連盟

JAF 認定セーフティアドバイザー

JAF 認定セーフティアドバイザーとして、指導や講演の講師など交通安全にまつわる活動を行うエキスパート。未就学児からベテランドライバーまで幅広く担当し、年間の講習受講者数実績は 10,000 名を超える



西部 豪進

株式会社オートバックスセブン

APIT オートバックス東雲 カーライフアドバイザー

2 級整備士の資格を持ち、その知識・経験を活かして販売からメンテナンス、アフターサポートまで幅広く対応。整備技術と接客力の両面に長け、現場を支える中心的存在として、後進の育成や品質向上にも貢献

参考データ

- ・気象庁「[気候変動監視レポート](#)」日本の年平均気温の経年変化
- ・JAF「[ロードサービス救援データ](#)」月別ロードサービス救援件数 2020～2024 年度月別
- ・JAF「[真夏の車内温度（JAF ユーザーテスト）](#)」
- ・JAF「[日常点検 15 項目（私にもできるマイカー点検）](#)」
- ・JAF「[見た目や運転でわかる？ タイヤの空気圧低下の検証（JAF ユーザーテスト）](#)」

※この資料は 2025 年 8 月時点の情報で制作しています